

令和3年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日 時: 2021年8月26日(木) 18:00~20:00

場 所: 兵庫県立大学遠隔講義室(Zoom)

テーマ: 大人の発達障害とがん

講 師: 井上 真一郎 先生(岡山大学病院 精神科神経科 医局長)

受講者: 108(アンケート回収率 76.6%)

主 催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表
川崎 優子



<概要>

岡山大学病院 精神科神経科 医局長 井上 真一郎先生から「大人の発達障害とがん」として、自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害といった発達障害の基本的な知識をご説明頂いた後、患者を前に医療者として何に気づいてどう診断、評価し、どのような対応ができるのかを順にご説明頂き、数多くの有効な対応例、逆に良くない対応例、岡山大学で実施されているマニュアルなどもあわせて詳しいお話がありました。

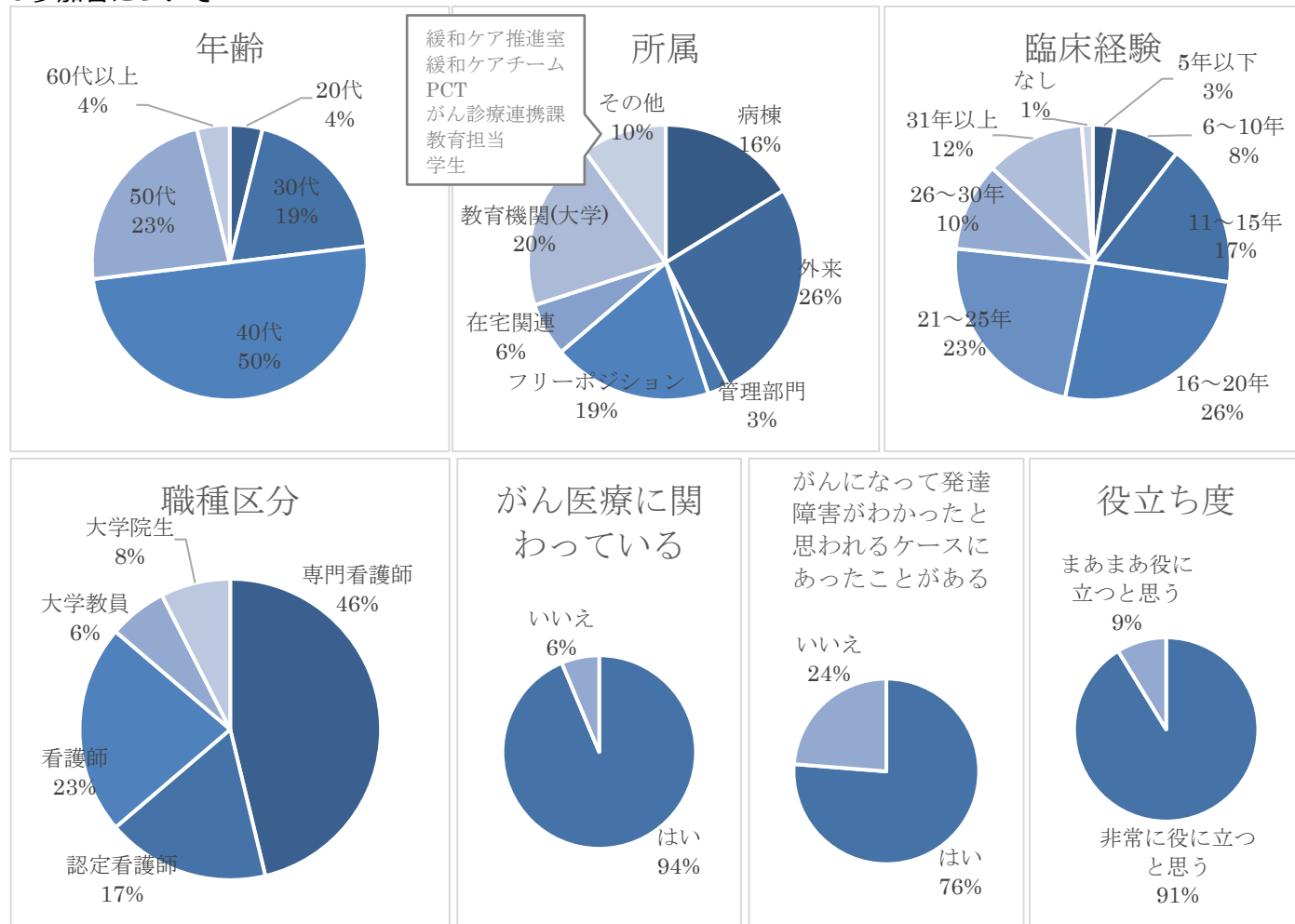
その後、参加者を少人数のグループに分けて、事前に先生から出されていた「こだわりが強く、ややパニックを来しやすい女性患者」の事例についてディスカッションを行い、それぞれの経験をもとに、何に気をつけてどういった対応ができるのかを話し合いました。

最後に、先生からある胃癌患者の事例をあげて、なぜこの患者はこのような行動になるのか、どうすれば安心して治療を受けてもらえるのかなど、医療スタッフとして何を考えてどうできるかを具体的にご説明頂きました。

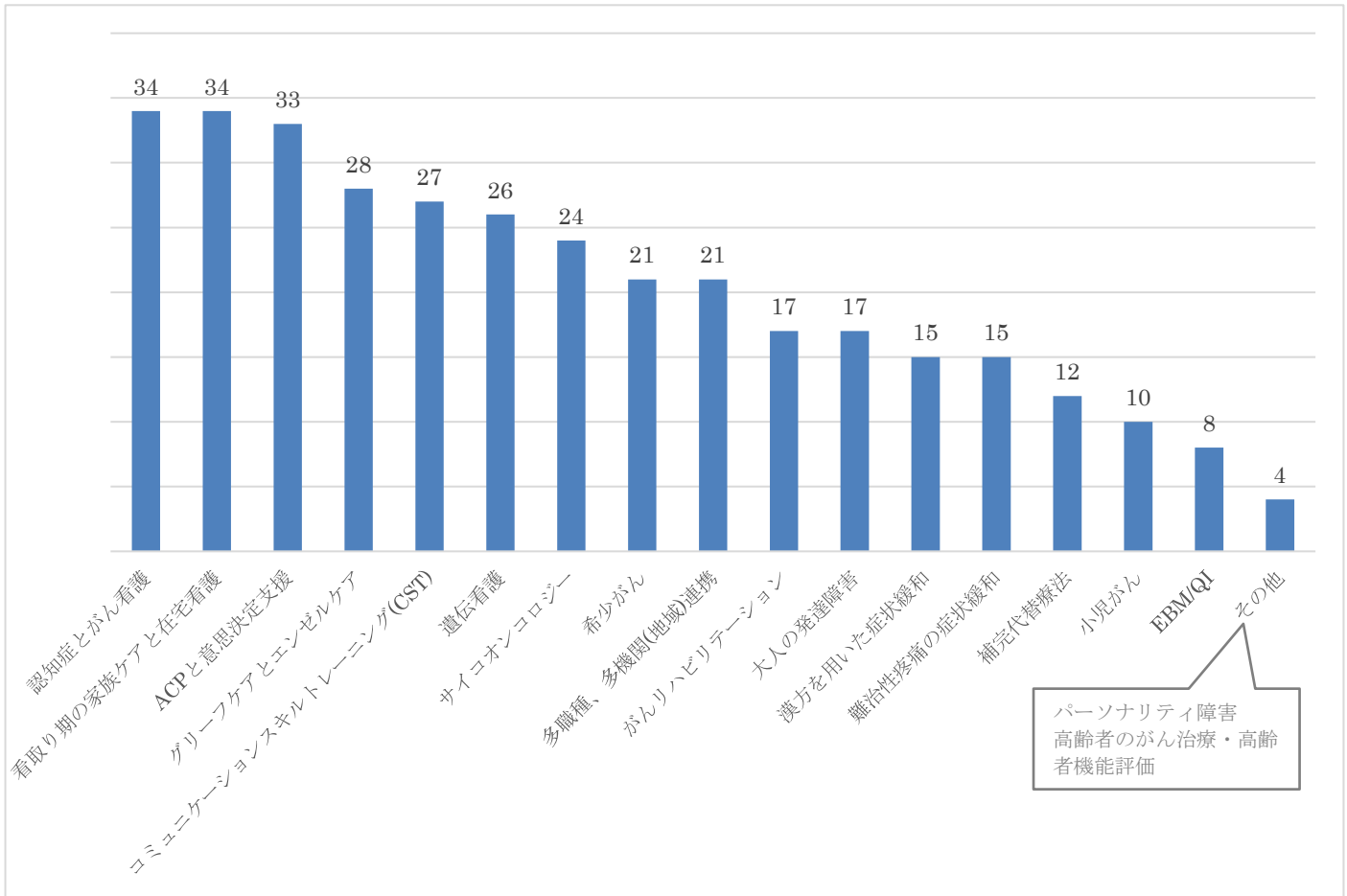
発達障害への対応について具体的によくのお話があったことで、日頃、おかしいな?とっていた患者への対応の迷いや、患者だけでなく同じ職場で働くスタッフへの対応の参考にもなり充実した時間となりました。

<アンケート結果>

●参加者について



●今後、セミナーに期待するテーマ



●参加者からのコメントより

▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。

発達障害の知識・理解

- ・ 行動を具体的に評価していくというところが目から鱗が落ちた感じでした。
- ・ 発達障害について初めて学ぶことができた
- ・ ASD の具体的な特性を聞きながら、自分が関わった事例と照らし合わせながら考えることができた。
- ・ 発達障害についてわかりやすい特徴などがわかりやすく説明していただいたため、理解しやすかった。これからは対応に困難な患者への対応について知ることができたため、自信を持って丁寧に気持ちに余裕を持って接することができそうだと感じた。
- ・ 具体的な対応方法など、まだまだ教えていただきたいことがありました。
- ・ 発達障害について、初めてこのように講義を受けました。基本的なことから対応まで知ることができ、勉強になりました。
- ・ ①想像力②こだわり③感覚の分類をご提示いただき、エピソードを医療者の中で整理する際にとても役に立つように感じます。具体的な対応例を臨床で思い出すことができればと思います。
- ・ ASD について理解がすすみました。対応のヒントをいただきました。
- ・ 発達障害についてより詳しく理解することができました。臨床でもよく出会うような事例で考えることができ、対応の仕方など考える機会になりました。
- ・ 事例がとても現場で「よくある！」という事例で、話し合いも短時間でしたが他の人たちがどのような対応しているのか聞いてよかったです。こういう患者さんが来た時、チームでどういう話し合いをしたらいいかまで具体的に聞いたのでよかったです！ありがとうございました！
- ・ 治平、スペクトラム、傷害の考え方がとてもよくわかり、対応が難しい患者さんに対する理解が深まると思いました。ケアを工夫し、実践できると思いました。
- ・ 発達障害という言葉の捉え方や、扱いの注意点なども知ることが出来、これも大きな学びでした。
- ・ 現在臨床で関わっている症例と重なることが多く、とてもよく理解できました。行っている対応の方向性は間

違ってないことが分かり安心しました。今後の看護につなげていきたいと思います。

- ・考え方が整理できて良かったです。
- ・臨床の場で困難さを感じる場面に立ち止まり、冷静に分析するための指標が分かり有難かった。
- ・講義については普段から気になっていた事がすっきりと腑に落ちたという感じでした。
- ・先生の講義を聞き対応をどうしていくのかこれでいいのかと思っていた事がわかり頭の中が整理されてよかった。
- ・発達障害の「障害」とはその人の障害ではなく、「生活上、支障をきたしている」ことだということを改めて感じました。また症例を通して発達障害の患者さんを見ると、身近な症状のように思いました。
- ・発達障害について知識の整理をすることができました。

患者理解・対応

- ・セミナー内で学習した特性は、知識がないと困った患者と思われるか、マイナスイメージを持たれやすいと考えた。知識を持った上で患者と接する必要があると考えた。
- ・診断が目的ではなく、気づくことが大切で、いかに患者らしい思考過程を私たちが感じ取っていくのが大事だと思いました。知識を有効に活用します。
- ・これまで、話の通じない患者さんに対しては、理解ができず、陰性感情が強かったと思いますが、障害と受け止めて、どのようにしたらうまく関わられるのかを考えていくことが必要なのだと思いました。
- ・陰性感情を持たずに、発達特性をアセスメントした上で、スタッフ皆で統一した対応ができると、患者さん本人も混乱せずに、治療やケアを提供できると感じました。視覚有意という特性を上手に活用することも必要だと感じました。
- ・発達障害のある患者さんかなと思いつつも、あやふやなまま対応したこともあり、こういう意味だったんだと気づきました。先生の話の内容が分かりやすく、とても勉強になりました。患者さんへの今後のケアに活かしていきたいと思います。
- ・医療者、教育者として、患者・学生を発達障害と診断したほうがよいと考えていましたが、陰性感情があったなと改めて感じました。診断をして対応することではなく、特性を知り、対応していくことがとても大切だと感じました。
- ・対象者を想像力、こだわり、感覚の視点で見ること
- ・その人の背景にあるものを、想像を働かせて、対応を考えること。
- ・ネガティブに捉えがちになってしまうが、ポジティブに捉えて関係性の中で、その人が過ごしやすい環境を整えていきたい。
- ・本日は貴重なご講演をありがとうございました。日常の中で、症例に類似した患者さんへの対応がよくありますが、その都度対応に困難とすることが多くありました。講演に参加したことで、行動の分類わけをすることで、対応策を検討する近道になると感じ大変参考になりました。
- ・患者さんや家族と話をするとき、今回の分けて考える視点は目からウロコでした。対象理解をするうえで、非常に講義の内容が役に立ちそうです。貴重な機会をありがとうございました。
- ・診断をすることではなく評価し環境を整えトライアンドエラーで個性として発達特性の視点から対応する重要性を学びました。
- ・セミナーを聴講し、あの方は、、もしやあの方も、、と思い当たる事が多々ありました。大変興味深く聴講させて頂きました。ありがとうございました。
- ・これまで、発達障害と考えられる患者さんへの対応について、どうしても「特別扱い」しているのではないかと考えジレンマを感じることもありましたが、平等ではなく公正という考え方をご教示いただきとても腑に落ちました。スタッフへも伝えていきたいと思います。
- ・発達障害と考えられる患者への関わり方。具体的に説明するなど。
- ・診断をつける必要性がないという点に納得しました。
- ・少しでも関わりの糸口を掴みながら理解されるようにと願いを込めてカルテに ASD の傾向と書いてしまったことを後悔しました。ただのレッテル、より「自分たちにはわからない領域の人」と壁ができるかもしれないので、気をつけます。
- ・3年ほど前病棟で経験した大変な患者さんとぴったり重なっていました。当時とても大変で試行錯誤しながら関わった内容が本日スライド 1 枚にまとめられており、その当時知っていたらと感じました。今後活用したいと思います。
- ・発達障害を診断するのではなく、どのように生活や治療に影響があるか、どんな対応が必要か、改めて考える

ことができました。

- ・アセスメントの視点となる知識をもって、対応を工夫することは、お互いのために有用と思います。
- ・発達障害の特性をとらえて対応を検討することが印象に残りました。
- ・Step1,2,3 で患者さんのとらえ方から対応までわかりやすく、自分の考えもシンプルに整理できました。ありがとうございます。
- ・曖昧なまま対応することへの不安があったのですが、お話を聞いて納得しました。患者さんの特性を踏まえた関わりができるよう、丁寧にその人の特徴を捉え、スタッフが対応に困らないようまた患者さんが適応しやすいような関わりを考えたいと思いました。
- ・発達障害の特性を理解し個別性のある対応をしていくことの重要性を再認識いたしました。臨床の現場での対応に実際、困難さを感じており、スタッフみんなで試行錯誤しながら対応していました。今後は発達障害の気づき→評価→対応を取り入れ、少しでも患者さんが入院中に生きづらさを感じない対応ができたらしらと思います。
- ・困った人だよ、と言われる方にはどのように対応すればいいのか、指針を示せるようになればいいなと思いました。このような記載例まで示していただけると、とても参考になります。ありがとうございました。
- ・普段、対応に困る患者さんをアセスメントする際に、受容過程やコーピングなどの理論ではしっかりこないことがあります。今回の学びを踏まえて、少し角度を変えて問題を見直すことが出来そうです。
- ・既往歴等に「発達障害」と記載があると、なんとなく構えていましたが、研修内で現象の捉え方を細かくお教えいただき、患者さんの見方が変わるなと思えました。
- ・発達障害と言っても、人それぞれ症状が違うので、基本的な対応方法と個別性に合わせた対応が大事であるとわかりました。
- ・最近家族が発達障害の方が多く退院調整が難渋することがあります。
- ・患者と関わる中で患者の行動を、客観的にアセスメントを行い、どう対応したら良いかを探しながら対応してみるよう、外来病棟との連携が必要だとわかりました。
- ・発達障害のがん患者の支援についての知識が得られた。また、発達障害かどうかはわからなくても、対応に困った患者への対応への参考になると思った。
- ・発達障害に気づくこと、特徴を知ることができました。患者さんの発言や行動で、「キャラクターかな」「そう言う性格だから仕方ない」と言う考えでしたが、具体的な対策を学ぶことができたので、前向きに関わり方を検討することができそうです。ありがとうございました。
- ・対応方法として、曖昧な表現ではなく、視覚的情報を上手く使って説明する事。見とおしを伝えておくこと。特徴を理解すること(感覚過敏、こだわりなど)などが具体的に理解出来ました。
- ・発達障害の文脈で眺めて個別的に対応する
- ・取説を作る

スタッフのスキル・支援

- ・看護師としてもこのような工夫をスキルとして持っていくことが大切ですね。
- ・患者さんではないですが、日頃学生など関わる人が発達障害と思われる人がおり、今回セミナーでご説明いただいたような行動が一致することが分かりました。今後どのように対応するか、参考にさせていただこうと思います。
- ・多職種チームによる情報共有の大切さを改めて感じました。具体的対処方法について多くのヒントを得たと思います。ありがとうございました。
- ・患者さんだけではなく、協働するメンバーにもASDのような方がいることに気づき、だからうまく話しかけ合えず協働できないのか…と思いました。
- ・グループワークは最近の研修の中では多く取り入れられますけれどもこのような看護師の中でも高い勉強した人たちの中にグループワークの中で普通の人でも、普通の人でも、という言葉がたくさん使う方がいらっしかったです。区別は仕方ないと思いますが私たちがこのような学習をする目的はそう感じる医療者の認識を変えていきにくさをお互いに少なくすると言うところが一番の目的じゃないのかと思うとグループワークの方法やひとりひとり専門看護に携わる看護師の意識の変化が何より求められると感じました。
- ・病棟スタッフが、関わりやすいように、具体的ななかかわり方を示すことが大切だと感じた
- ・教育の問題だと思うが、患者の個別性をどのような情報から考えるのかを知らない医療者が多いと日々感じている。このために、本日のセミナーにあった患者をどう捉えるかという考え方自体にあまり重きを置いていないようなスタッフには、本日の学びを具体的に伝えて患者を理解するところから、丁寧に教えて行きたいと感じた。
- ・発達障害の診断が必要ではないことは薄々わかってはいましたが、じゃあどのように病棟スタッフと関わり方

について検討したらよいのだろうと悩んでいました。色んなエピソードをテーブルに乗せて、発達障害の文脈に沿って分類するというのはとても良い方法だと思いました。

その他

- ・臨床に活かしていきたいです。
- ・発達障害でスポーツ界の方を例でだされていましたが、違和感を感じました。
- ・人の特性を理解し、生きづらさを感じているひとの支援が出来るようになりたいと思いました。
- ・勤務の都合でGWに参加できませんでした。
- ・分かりやすい講義をありがとうございました。
- ・とても勉強になるセミナーでした。
- ・紹介していただいた本を購入します。
- ・井上先生、わかりやすいお話、ありがとうございました。
- ・みなさんのご意見や先生からのご助言が伺いたかったのですが、GWにうまく参加できず申し訳なかったと思っています。

▼発達障害を持つ患者への看護において、今、最も課題と感じていることをお書きください。

スタッフの理解・スキル

- ・医療スタッフの理解のなさ、患者に対する陰性感情の壁
- ・発達障害に気づくアンテナが低いこと、コミュニケーション
- ・看護師など医療者の正しい知識だと感じました。
- ・医療者に発達障害への理解がないことから偏見を持つことにつながる
- ・発達障害かもということで医療者がレッテルをはってしまい、対応を諦めてしまう傾向があること。
- ・変わっているとレッテルを貼りがちで対応まで深く話し合いを持っていないことです。
- ・関わることで、ストレスが溜まるので、できれば関わりたくないと思ってしまいます。ルールが守れないなら、退院して欲しいともおもってしまいます。治療ができなくなれば、患者さんの不利益になることが課題です。
- ・特性と環境のはざままで困っておられる対象者の視点をもつ余裕が、私たちには大切であるということ。
- ・めんどくさい人、困った人、という先輩看護スタッフからの言葉が、若いスタッフもそのように患者さんを扱っていいんだと思ってしまっていること。
- ・発達障害は程度もあるため、特性、性格が極端な場合やわかりづらい場合があるため、気づき→評価→対応が遅延する可能性が示唆されると感じています（わかりやすい性格や特性であれば、周りも含め対応しやすいが、グレーゾーンの場合はきづかれにくく、対応が遅れる可能性があるかと思いました）。
- ・上でも述べましたが、発達障害にレッテルを張った見方をしてしまっていたこと。
- ・講義で何度も強調されておましたが、大切なのは、診断ではなく、個別的なケアを見出すヒントとして扱うことと思いました。
- ・他の患者よりもかかわる回数や内容が違うことで「平等ではない、特別扱いをしている」と感じるNsもいるので、どこまでNsの患者理解につなげられるかが課題です。
- ・周囲のスタッフにも関わり方について理解を持ってもらうこと。
- ・苦手意識
- ・自分を含めてスタッフの知識不足
- ・発達障害があるのかを判断するのが、難しいと感じました。
- ・必要なのは診断をつけることではなく、気づきと支援なのだということが分かった。逆に発達障害と診断がついていることについての患者の不利益の方が問題だと思った。
- ・発達障害が本人の特性として認めて、変わらない変えれないその人の発達特性を理解しそれに応じた対応をしていくことで、本人も安心して医療が受けられるのではないかと思います。

スタッフへの支援・ケア

- ・再発患者さんなどで、外来や入院で継続して治療をするときに、今後、ずっと治療が続くということが理解できずに、「何回治療するの?」「なんで終わらないの?」と聞かれることが多かったです。治療や病気とずっと付き合うということについてのケアに悩んでいるスタッフが多いなと感じます。

- ・ 対応についてスタッフ間でどのように共有すれば良いか
- ・ 間違っても認識されても医療は、一回限りで医療者は自分達のリスクやその後の法的な事も考えないといけないと思うのでお互いを守る方法を学ぶ必要があると思いました。
- ・ 患者に対しスタッフが抱く陰性感情、関わりにくいと感じていることにどのように支援するか
- ・ 患者にとって必要なケアが受けられないんじゃないかという医療者などのモヤモヤと、患者の治療に対しての納得をどう擦り合わせることができるかなど。

患者対応

- ・ 精神疾患同様、レッテルを貼るための診断名ではなく「本人が楽しく安楽に生きるため」「適切な診療、ケアを行うため」という目的から逸れないようにと思います。
- ・ こだわりの対処
- ・ 自分を信頼してもらうこと
- ・ 発達障害を持つがん患者への対応。紹介していただいたテキストを購読する必要があると考えた。
- ・ 発達障害だと気づき、対応をどうすれば良いか判断すること。
- ・ 事例にもあったが、治療や療養の意思決定支援が難しい。課題に向き合い、自身で決定することを迫っているのか悩む。
- ・ 意思決定の場において患者さんが拒否する場合、こだわりで嫌なのか理解ができていなくて嫌なのかその見極めが難しい。そして意思決定した方向で本当に進んでよいのか、間違っていないのか悩む。
- ・ 発達障害であっても、人それぞれなので、個別性のある看護がより求められること
- ・ つい問題行動と思われる医療者の対応などに目が向きがちですが、診断から治療へと不安も抱えておられる患者理解も深めたいと考えています。
- ・ 発達障害を持つおひとり様がん患者さんの、治療や療養の意思決定支援。
- ・ あれもこれも気になって一般的な価値にも引きずられながら強いこだわりもあり、自身の価値の置き所がいつまでも定まらず支援に困難を感じます。
- ・ 意思決定支援
- ・ その人らしく過ごせるように
- ・ 意思決定をしないといけない患者への関わり方と、その患者を支える家族の対応が難しいです。家族が高齢な場合や、過保護な場合などの事例もあり、患者本人の意思を尊重しながら治療や生活の方向性を考えていくのが困難でした。
- ・ 意思決定支援において、病状理解や表現が乏しく継続的支援が必要と感じる。そのためには、患者・家族をどう捉えどう介入するのか言語化し各部署と課題を共有し円滑な連携につなげていきたい。
- ・ 患者との距離。

マニュアルやシステムの整備

- ・ 告知前の検査説明の場面。患者に気付いた医師と患者・家族の調整。
- ・ 外来勤務なので病棟よりも発達障害をもつ患者さんに気づきにくいと思います。
- ・ 個人差、個人の特性にバリエーションが大きく、それぞれに対応するためのトリセツなど、こちらも対応のバリエーションを持っていないと急な対応が難しかったり、短期入院や外来通院などの短期的な関わりの中でコミュニケーションエラーが起こったり、治療継続が困難になるケースが今後も増えると思われる。
- ・ このような知識の共有があまり進んでいないこと。
- ・ 診療報酬算定のために記載すべき記録、書類が多すぎる。また新しい治療や検査、薬剤が次々と出てきて、指示も複雑化するなどで時間がかなり取られている。このため、患者に接する、話す時間も限定されるため、患者理解を短時間ですることが求められる。この時間に追われる体制自体が一番の課題だと考える。発達障害患者さんのように、丁寧に理解して接することが必要な場合、現場ではかなり厳しいと感じている。
- ・ 外来の多くの患者さんの中で、発達障害のある患者さんを見出し、特性を踏まえた関わり（意思決定や症状マネジメント）を行う難しさがあります。また、地域との連携において患者さんに合わせたケアが継続できるような情報共有のあり方にも課題があると思っています。
- ・ 意思決定支援において、より時間を要する。マンパワーの不足。外来との連携。
- ・ 日々の業務の中で、相手の認識度に合わせた丁寧な説明ができるのか。スタッフ全員にそれを周知徹底させることが課題であると思います。
- ・ 問題行動や、問題のある患者さんという見方ではなく、具体的にそういう状況が不得手なのか理解し、その不

得手な部分をどのようにかかわればカバーできるのかということチームで共有しながら関われるというヒントをいただいたと思います。がん治療において意思決定を迫られる場面など時間が必要ですが、多くが外来で行われており本人の理解と支援を検討する時間が短いことが課題のように思います。

- ・生活保護の場合に福祉支援が計画範囲のみで、受診同行などは自費となったりすることがある。治療内容や見通しを受診の際に看護師の同席が必要であるが、認識されていない現状がある。

コロナ下での対応

- ・治療選択が年々複雑になっているなか、コロナ禍による不安や制限も加わりこだわりが強い方ほど意思決定支援が難しい
- ・コロナ禍なので家族との面会も禁止され、家族から得られる情報がなく、本人の様子だけでは特性をつかみにくい患者さんがおられて困ることもあると感じています。
- ・コロナ禍の中、通院にて治療をすることは感染リスクの機会を増やすものであり、治療時間はもとより治療までの待ち時間に対してクレームを伝えてくる患者が増えてきたと感じます。発達障害を持つ患者さんであればより説明を求める場面が増えており、こちら側の工夫と状況を伝えることの難しさなど課題と感じる場面があります。

その他

- ・発達障害という名称をせめて発達特性に改変して欲しい。

▼ご意見、ご感想がありましたら、お願いします。

セミナー内容

- ・困難事例や、対応している事例にあてはあることがあり、とても勉強になりました。明日からの実践に活かせたらと思います。
- ・難しい患者さんのアセスメントに早速活用できそうです。
- ・これまで誰も教えてくれなかった、しかし実臨床で頻繁に直面する課題について丁寧に教えて頂き大変有難かったです。自己学習を継続しさらに学びを深めていきたいと思います。
- ・今回、テーマがとても興味深く聴講させていただきました。
- ・発達障害のある方を判断するのが難しいと感じました。
- ・いつも興味のあるセミナーをありがとうございます。
- ・たくさんの具体例があって、分かりやすく、楽しかったです。
- ・非常にためになるご講義をありがとうございました。

グループワーク

- ・グループワークは時間が短かったですが、とても有意義でよかったです。
- ・今回の Web 開催の研修で、講義だけでなくグループワークでお互いの意見や認識を共有できとても有意義な研修になりました。もう少し、グループワークの時間が欲しいとも感じましたが、事前に資料等を頂いていたので、読み解きながら取り組むことができました。直に対面での研修はまだ難しいかと思いますが、皆さんの顔を見ることができ、楽しく研修を受けることができました。日勤終わりに参加できるところもとても助かりました。このような研修を企画していただきありがとうございました。次回も参加したいと思います。
- ・発達障害の事例検討など、様々なケースについてのグループワーク等があると勉強になると感じました。今後どうぞよろしく願いいたします。
- ・講義も参考になりましたが、グループでの時間ももう少しあればと思いました
- ・グループワークの時間がもう少しあればよいと思いました。
- ・グループワークで、誰も口火を切らずなかなか進まなかったです。

開催時間

- ・平日の夕方開催でも大丈夫です。
- ・土曜日日曜日開催の時間調整が難しかったので、平日の開催は、ワークライフバランスを考えたときに参加しやすかったです。
- ・日勤の日であり本当に開始時間ギリギリに間に合いました。18:30~だとありがたいです（勝手ながら）
- ・2時間と短く感じる研修でした。ありがとうございました。
- ・平日夕方の開催は正直時間の確保が厳しく、希望としては休日の半日程度ゆっくり解説を聞きゆっくりとグループで討論できればうれしいと思いました。また、タイトなスケジュールの中でのグループワークでしたので、

事前に討論のポイント（あるいは発達障害を示唆するエピソードの絞り込みまで？）をお伝えいただければ、各自意見をまとめてグループワークに参加しすぐに話し合いが出来たのではと思いました。

- ・平日で18時からの研修という時間帯は良かったと思います。（ちょうど職場で17～17時半まで勉強会でした）
- ・ZOOMは参加しやすいです。日勤後でしたが楽しかったです。ありがとうございました。

今後のセミナーについて

- ・ピアサポート、患者会のことを知りたいです。あとはサバイバーさんから学ぶ、今病院を離れてしまった方の経験を診断、治療時のケアに生かせるように学べたらと思います。
- ・今後も、多様なプログラム（研修）が公開されますこと、期待しております。

その他

- ・いつもありがとうございます。学びになっています。今後も企画をお願いいたします
- ・とてもためになりました。今後にかしたいと思います。
- ・とても面白く学ぶことができました。このような機会をありがとうございました。
- ・有意義なセミナーをありがとうございました。
- ・とても勉強になりました。今後も楽しみにしています。
- ・大変有意義な研修でした。ありがとうございました。
- ・とても参考になりました。
- ・ビデオが、ホストに無効にされてしまい、自分では解除できませんでした。残念です。
- ・このような機会を頂いてありがとうございました。
- ・いつもありがとうございます。とても良い学びになりました。
- ・貴重な講義を受けることができ感謝しております。
- ・今後もこのような勉強会に参加し自己研鑽に努めていきたいと思っております。